

目黒区いきもの住民台帳

身近に暮らすみどりのなかまたち

List of birds of Meguro City

め ぐろ く や ちょう 目黒区の野鳥 Vol.2



地球のいのち、つないでいこう



いのち わ
ささえあう生命の輪 目黒区生物多様性

目黒区

まえがき

身近に見られる野鳥ですが、みなさんはどれぐらいの種類をご存知でしょうか。カラス、ハト、スズメ…実は都内でも、たくさんの野鳥に出会うことができます。

この冊子では、主に目黒区で見られる鳥類に焦点を当て、特徴や生態を学べるものになっています。また、目黒区に住んでいるみなさんから寄せられたいきもの観察記録を集めた「めぐろいきもの气象台」のデータを用いて、これまでに目黒区で確認された鳥類のリストも掲載しています。

目黒区の鳥 シジュウカラの1年



卵は2週間ほどでふ化します。
巣の中には、動物の毛や植物の繊維が入っています。

シジュウカラのヒナは2～3週間ほどで巣立ちます。

春



落ちちゃった…



大丈夫だよ！

巣立ちの一コマ

最初は、幼鳥だけの群れをつくりますが、そのうち成鳥の群れに入ります。

夏



エナガ



メジロ

種類のちがう小鳥たちと群れをつくって暮らします。これを混群といいます。

秋



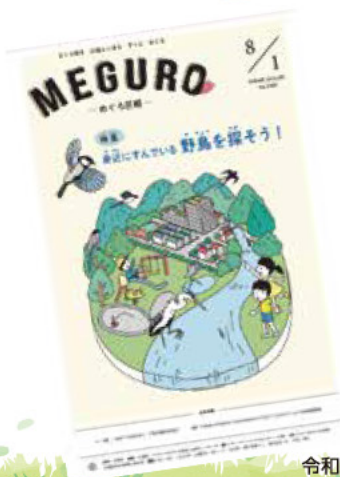
ヤマガラ

群れから離れて、繁殖、産卵します。

冬



めぐろ区報でも特集しました！



令和6年(2024年) No.2189 8月1日号



いつもの暮らしの身近にいる



鳥類の特徴

P4-5



目黒区の鳥 シジュウカラの紹介

P6



監修者コラム

P7

インタビュー

P8-9

野鳥について知ってみよう！



鳥についての質問・疑問解決コーナー

P10



野鳥の名前を知ろう

P11

生物多様性ってなに？
身近な外来種

P12-13

目黒区で確認されて
いる野鳥リスト

P14-19

鳥類の特徴

鳥はどんな生きもの？

鳥の特徴のひとつとして、羽毛があるということがあげられます。鳥の体の表面は羽毛で覆われていますが、鳥たちが飛べるのも、水の中を泳いだり、もぐったりできるのも羽毛があるためです。また、近年の研究から、鳥は恐竜の子孫であると言われています。

くちばし

食べ物をとるための器官で、種類によって、形や大きさは大きく異なります。くちばしの内部は空洞になっていたり多孔質の骨でできていて、空を飛ぶために重さを軽くする工夫がされています。

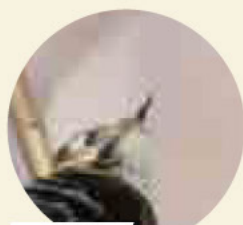
くちばしの形と食べものの関係



アオサギ

■ すぐどく尖った形

大きな魚を突き刺して捕まえるのに適しています。



コゲラ

■ 細い形

細いくちばしは、昆虫や幼虫をつまむのに適しています。



ツミ

■ 先端がかぎ形

猛禽類のくちばしは、捕まえた獲物の肉を引きちぎるのに適しています。



シメ

■ 大きい、太い形

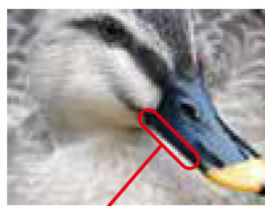
木の実をつまんで食べたり、硬い木の実を割って食べるのに適しています。



カルガモ

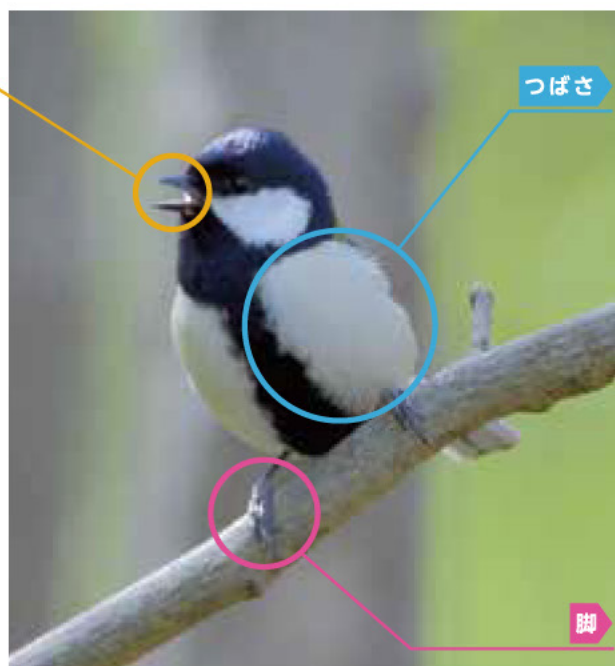
■ 幅が広い形

水中の微生物などを水ごと口に入れて濾し取るのに適しています。



ブラシ状になっていて、ここからこしとった後の水が出ます。

鳥のからだ



どんな実を食べる？



鳥類の特徴

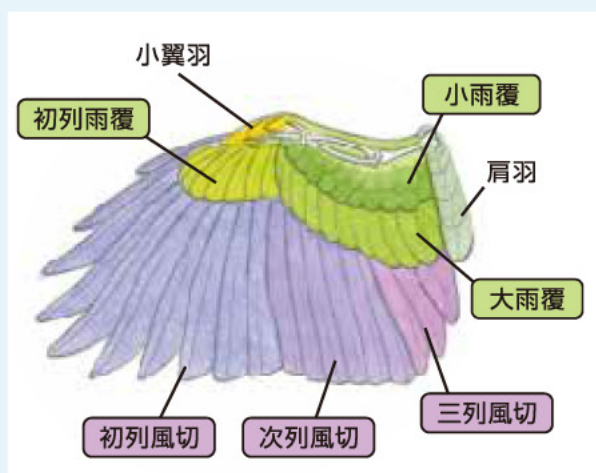
つばさ

羽ばたかせることで、空を飛ぶことができます。鳥の種類によっては、つばさがあっても飛べない鳥もあります。

つばさのつくり

【体をまもる羽:雨覆】

体の表面を覆う羽で、風切羽の隙間をうめて、表面をなめらかにします。



【飛ぶために必要な羽:風切羽】

初列風切:推進力(前に進むための力)を生みます。
次列風切:揚力(上下に進むための力)を生みます。

飛び方の違い

羽ばたき飛行(直線飛行)

基本的な飛行方法で、つばさを上下に動かして飛びます。



波状飛行

強く羽ばたいて上昇し、その後に翼をたたんで下降します。波を描くように見えることから波状飛行と呼ばれています。



ホバリング

空中でその場に止まっているような状態で飛ぶ方法です。

脚

物につかまったり、地上を歩く時に使います。水鳥のなかまは、泳ぐために適した水かきのある種もいます。

移動方法の違い

種類によって、移動方法にも違いがあります。



ウォーキング

人間と同じように左右の足を交互に出して歩く方法です。ムクドリやハト、ハクセキレイなどがこの歩き方です。



ホッピング

両足をそろえて、ジャンプするように移動します。スズメやキツツキのなかまなどがこの歩き方です。



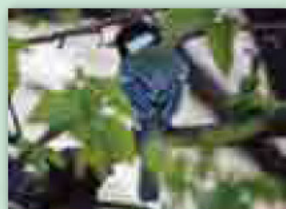
ハシブトガラスはホッピング、ハシボソガラスはウォーキングが多いです。

なお、ツグミやカラスはどちらの移動方法も使います。

目黒区の鳥

シジュウカラの紹介

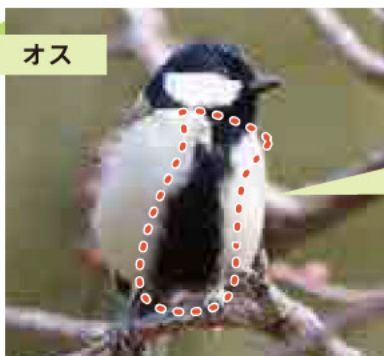
シジュウカラはシジュウカラ科の鳥で、黒い頭とのだ、白いほお、黄緑の背、胸から腹の中央に黒い筋が目立つ、すずめより小さい益鳥です。ひとなつこく、枝から枝に飛び回って害虫退治をします。晩秋から冬になると、小群で「ツピー、ツピー」と鳴きながら、えさを求めて庭木から庭木に飛んできます。巣箱にもよく訪れ、えさ台のヒマワリの種やピーナツ、ラードも好物です。小群をなして飛ぶこの鳥の姿は、「人と人とのふれあいを大切にし、心のかよいあうまちづくりを進める」という目黒区を象徴する鳥です。



○全長 15cm

オスとメスの見分け方

オス

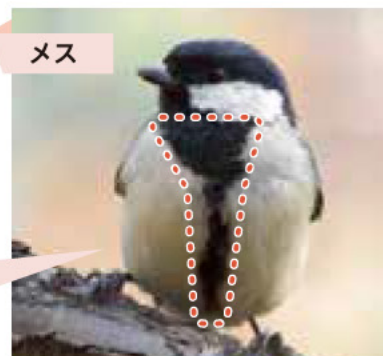


見分け方のポイントは...
ネクタイの太さ!

オスのほうがメスより太い!

メスはオスよりちょっと細め。

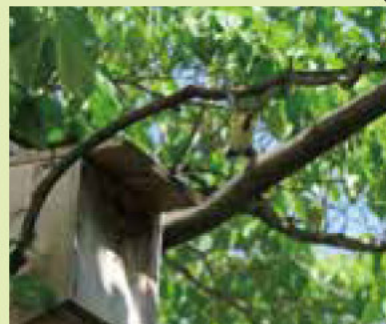
メス



目黒区の取り組み紹介

巣箱モニター

目黒区では、区民のみなさまにご協力をいただきながら、自然環境の変化をとらえるため、継続していきもの調査を実施しています。調査の一環として、早春に、ご自宅の敷地内(樹木等)に巣箱を取り付け、シジュウカラの巣作りのようすを観察・記録していただける方に巣箱をお渡ししています。毎年1月から2月に募集します。詳しくはめぐろ区ウェブサイト等をご覧ください。



シジュウカラの言葉の世界

鈴木俊貴（東京大学 先端科学技術研究センター 動物言語学分野 准教授）

シジュウカラという鳥をご存知でしょうか？

黒い頭に白い頬、胸の黒いネクタイ模様が特徴のスズメくらいの大きさの野鳥です。東京都の都市公園でもよくみかけますが、耳を澄ますと本当にたくさんの種類の声を出すことに気がつくと思います。僕は、シジュウカラの言葉について研究をしてきました。

春先に聞こえるのは「ツツピーツツピー」と聞こえる声。これは、繁殖のためのなわばりを宣言するための鳴き声です。鳥類学ではさえずり(song)と呼ばれるもので、古くから研究が進められました。ウグイスの「ホーホケキョ」はウグイスのさえずりで、やはり縄張りを宣言するための鳴き声です。

シジュウカラの場合、さえずり以外にも本当にたくさんの種類の鳴き声をだします。例えば「ヂヂヂヂ」と聞こえる濁った声。かつて警戒の声だと考えられていたこともありますが、僕の研究で、これは仲間を呼ぶための鳴き声であることがわかりました。餌場に仲間を呼ぶ時にもよく使う鳴き声なんです。無理やり人間の言葉にすると、「集まれ」といったところですよ。

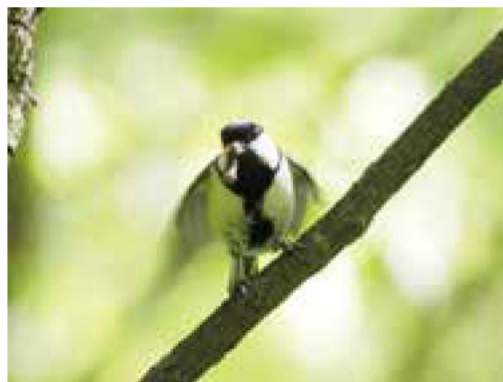
「ピーツピ！」と響く声は「警戒しろ！」という意

味。ネコやカラスなど、小鳥を襲う危険な動物をみつけたときに鋭く発します。この声を聞くと、シジュウカラたちは首をキョロキョロ動かし、周囲を警戒するのです。

それだけではありません。なんと、シジュウカラはこれらの鳴き声を組み合わせて文章をつくることができるんです。「ピーツピ・ヂヂヂヂ」と組み合わせると「警戒して集まれ」という意味。シジュウカラは、モズなどの天敵を群れをなして追い払うことがあるのですが、その時の号令がまさにこの組み合わせだったのです。試しにこの鳴き声の組み合わせをスピーカーから流してみると、それを聞いたシジュウカラは警戒しながら近づいてきます(大学の許可を得た上で実験をおこなっています)。

興味深いことに、鳴き声の順序を逆にして「ヂヂヂヂ・ピーツピ」と聞かせてみると、正しく意味が伝わらない。つまり、シジュウカラは文法のルールを使って会話しているのです。

ほかにも、天敵の種類を示す単語や翼を使ったジェスチャーなど、さまざまな言葉がみつかりました。シジュウカラだけでなく、他の動物たちにも言葉と呼べるものがみつかるかもしれません。ぜひ、観察してみてくださいね。



目黒区内で鳥の観察を

野鳥観察の楽しさを一緒に広めてくれる方に、普段の観察方法などについてお聞きしました！
まずは、公園に行って鳥を探すことから始めてみませんか？

今後の目標は、奄美大島で見た
アカショウビンやカワセミに再会することです。



安達 さん

野鳥観察を始めたきっかけは？

目黒区民35年目の会社員です。子どもの頃より動物や昆虫に興味があり、いろいろな種類の小鳥を飼っていました。

普段、野鳥を観察する場所はどこですか？

自宅の庭です。庭には植物があるので、鳥がよく遊びに来ます。もっぱら、そこに来る野鳥を観察しています。怖がらせないように窓は締めたまま室内から眺めています。

取材当日も
メジロがやってきました。



印象に残っているエピソード

ある日、庭から何者かの視線を感じました。見ると、塀の上のプランターにキジバトのヒナが2羽そろってこちらを向いていました。彼らはここで生まれたわけではなく、親がどこからか連れてきたようです。ポヤポヤした産毛が抜けてだいぶ成長すると、ヒナだけで庭を歩き回り、探検するようになりました。これはまさに保育園だと思いました。ある日、私が庭で植物の手入れをしていると、親がペタペタ歩いてきて、私の10cm横まで来て顔をじっと見ていました。「いつもありがとう」と言っているかのように見えました(笑)



さいごに、これから野鳥観察を始めたい区民の方へ一言！

外出するとスマホ片手にイヤホンの方が多いと思います。たまには、周りの声(音)に耳を傾けてみませんか？
目黒区にはたくさんの野鳥がいます。いつもの風景が変わってくるはずです。

林試の森公園で、いきもの住民会議を開催しました



講師:鈴木俊貴 先生

令和6年12月21日に林試の森公園で、鳥類の観察会を実施しました。前半は、シジュウカラの鳴き声の意味や文法構造について研究されている東京大学先端科学技術研究センターの鈴木 俊貴先生をお招きし、ご講演いただきました。
シジュウカラ同士のコミュニケーションにとどまらず、異種間での音声利用(スズメはシジュウカラの言葉が分かるなど)のお話を聞きました。



している方に聞きました！

毎年3月に庭に現れるツグミを今年もみました！
良いカメラを買おうかと思案中。



七緒子 さん

野鳥観察を始めたきっかけは？

昭和30年代は野鳥を自由に飼える時代でした。伯父や従兄の家にオオルリやウグイス・メジロなどがいて餌をやる様子など見ていたのがきっかけかと思います。



▲ウグイス

普段、野鳥を観察する場所はどこですか？

家の庭や碑文谷4丁目サレジオ通り沿いのドングリ山、すずめのお宿緑地公園、碑文谷公園です。鳥の姿をよく見るための双眼鏡、撮影と鳥の名を調べるためのスマホを持っています。あらかじめ、鳥類図鑑である程度の鳥の種類を覚えてから出かけます。



すずめのお宿緑地公園

印象に残っているエピソード

もう30年くらい前のことになりますが、ドングリ山のイイギリの実に、キレンジャク、ヒレンジャクが混在した十数羽の群れがいるのを見たことがあります。

また、庭の巣箱から、シジュウカラが巣立ったことや、庭にコゲラが来たこと、碑文谷公園でコサギが小魚を捉えるところを動画撮影できたことなどが印象に残っています。



▲キレンジャク

◀ヒレンジャク

さいごに、これから野鳥観察を始めたい区民の方へ一言！

70年間同じ場所に住んでいるので、いかに自然が失われ、野鳥が激減したことを残念に思っています。恵まれているとは言えない環境で必死に生きている目黒の野鳥を、愛情をもって観察し大切にしていきたいと思います。

安達さん、七緒子さん、ありがとうございました！

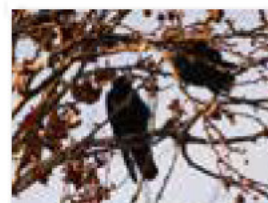
後半のバードウォッチングでは、林試の森公園で、身近なカラスやハト、外来種ワカケホンセイインコの観察を行いました。シジュウカラの鳴き声が聞こえ、あたりを見まわしたところ、エナガと混群をつくっているシジュウカラの姿を発見することができました。



▲どこにいるかな？



▲鳴き声が聞こえる！



▲園内にはカラスがたくさんいました。

目黒区では、毎年テーマを決めて学習会や観察会を実施しています。自然通信員向けにテーマに沿った学習会を開催しています！ぜひご登録ください。詳しくは裏表紙へ！

鳥についての質問・疑問解決コーナー

普段、区民のみなさまが気になっている鳥の生態や行動など、鳥についての質問や疑問を募集しました。ご応募いただいたみなさま、ありがとうございます！

たくさんの質問の中から、冊子を監修していただいた鈴木先生にご回答をいただきました。

Q 目黒区にフクロウのなかまやノスリはいますか？

A フクロウのなかまのアオバズクは、1960年代までは目黒区内で繁殖していた可能性があると考えられています。また、ノスリはずんぐりとした身体の高力のなかまです。目黒区では、上空通過の観察記録が時々あります。どちらの種類も観察記録が少なく、見つけるのは難しいかもしれません。



アオバズク

■全長：29cm

- ・夏鳥
- ・目のまわり（虹彩）は黄色です。
- ・青葉が茂る5月ごろに渡来することが名前の由来です。



ノスリ

■全長：オス52cm メス57cm

- ・留鳥・漂鳥
- ・成鳥の目のまわりは暗い色です。
- ・樹木の一番上に留まることが多いです。都心部だと、電柱、杭のてっぺんに留まっているかも？

Q シジュウカラ以外に、シジュウカラの言語を理解している動物はいますか？

A シジュウカラの周りに住んでいる他の種類の野鳥も、シジュウカラ語を理解できます。たとえば、メジロやヤマガラ、スズメなどです。鳥によって鳴き声の響きは異なりますが、お互いに鳴き声の種類とその意味を学び合っているのです。



メジロ

■全長：12cm

- ・留鳥・漂鳥
- ・体の上側は黄緑色で、どの部分は黄色です。
- ・目のまわりが白いことが名前の由来です。



ヤマガラ

■全長：14cm

- ・留鳥・漂鳥
- ・頭は黄色っぽい白と黒のツートンカラーで、体の下側は茶色っぽい色です。
- ・雑食性で昆虫類やエゴノキなどの植物の実を食べます。

Q これからも、鳥類などの身近な自然と共生していくためには、どのような行動をしたり、どのようなことに気をつけるとよいでしょうか。

A 最も大切なのは、自然をよく観察することだと思います。身近な自然のなかにも、誰も知らないワクワクの発見がたくさんあります。それに気づくだけでも、人生が豊かになるし、自然の大切さを本当の意味で理解できるのではないかと思います。個人的には、自分が進めている鳥たちの言葉の研究が、私たちと自然をつなぐ架け橋になればいいと思っています。

野鳥の名前を知らう！

街中で良く見られる野鳥の名前が分かったら、普段の散歩も楽しくなります。ここでは、野鳥の探し方や名前の調べ方を紹介します。

STEP 1

身近な鳥を知ろう！

まずは、よく見られる種類から探してみましょう。鳥の鳴き声を頼りに探すと見つけやすいです。

スズメ



■全長：15cm
・留鳥

カラス (ハシブトガラス)



■全長：56cm
・留鳥

キジバト



■全長：33cm
・留鳥 漂鳥

ムクドリ



■全長：24cm
・留鳥 漂鳥

ヒヨドリ



■全長：28cm
・留鳥 漂鳥

シジュウカラ



■全長：15cm
・留鳥

STEP 2

知らない声を探そう！

これまでに聞いたことのない鳴き声が聞こえたら、新しい野鳥に出会えるチャンスです！鳴き声のする方向を注意深く観察しましょう。もし見かけたら次のことを注意しながら観察してみましょう。

観察



スズメより大きいな。

胸も茶色に見える…

頭の色は茶色かな。

目元が少し黒い？

尾を回しているように見えるなー

調査

観察した内容をもとに、インターネットや図鑑を使って名前を調べてみましょう！

結果

モズという鳥だった！

Q. クイズ！

寒い時期に公園の藪の中から「チャッ、チャッ」と声がしました。その後に、下の写真の野鳥が現れました。野鳥の名前はなんでしょう？



ヒント：春に「ホーホケキョ」と鳴きます。答えは裏面にあります。

いまさら聞けない？生物多様性ってなに？

生物多様性とは、いきものたちの豊かな個性が間接的につながり、支えあっていることをいいます。私たちの暮らしは、生物多様性がもたらす多くの生態系サービスによって支えられています。

目黒区では、区内の生物多様性を守っていくために、生物多様性地域戦略を作っています。

目黒区生物多様性地域戦略 「ささえあう^{いのち}生命の輪^わ 野鳥のすめるまちづくり計画」

生物多様性を言い
換えたものです



「野鳥」を都市における生物
多様性確保のシンボルと
とらえています。



この計画の目標と取り組みの内容は以下の通りです。

目 標

目標
1

みどりの風景をまもり、いきものに
やさしさのある環境をつくります。

目標
2

自然とのふれあいを大切にした、
めぐろの暮らしを未来に伝えます。

目標
3

すべての主体があらゆる活動で
「ささえあう生命の輪」の確保を
目指した協力と連携を行います。

取 り 組 み

取り組み
1

区民参加型のいきものの調査、
雑木林の手入れ

取り組み
2

グリーンクラブなどのボランティア活動、
外来生物の普及啓発

取り組み
3

いきものの発見隊の開催、学校等との連携事業



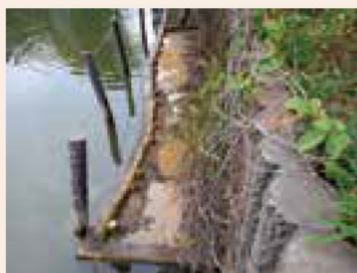
コ ラ ム

目黒区ではこんな取り組みも！

生物多様性保全林事業

生物多様性保全林事業とは、区内で
いきものの生息拠点となっている場所
を保全するため、公園や公共施設等
で、永続性がある一定規模以上の緑地
についてエリアを指定し、みどりの保
全やいきものの生息拠点としての機能
向上を図る取組を進める事業です。

生物多様性保全の様子(碑文谷公園)



▲浅場の創出



▲エコスタックの設置

P11.クイズ!の答え:ウグイス

身近な外来種

外来種とは、もともとその地域にいなかった動物や植物が、人間の活動によって持ち込まれたもののことをいいます。外国から持ち込まれたものは「国外外来種」と呼ばれ、国内のものでも、もともと生息していなかった地域に持ち込まれた場合は「国内外来種」と呼ばれます。

鳥が自分で移動してきた場合は、外来種とは言わないよ！



なにが問題なの？

外来種が新しい場所に来ると、その場所の自然環境に影響を及ぼしたり、もともと生息しているいきものにさまざまな影響を与えます。

外来種の問題点

1

【生態系への影響】

もともと、その場所で生活していた在来生物との間で競争が起こることで、生態系への影響があります。



2

【人の生命・身体への影響】

毒をもっている外来種にかまれたり、刺されたりする危険があり、人への影響があります。



3

【農林水産業への影響】

畑を荒らしたり、漁業の対象となる生物を捕食したりする外来種もあり、農林水産業への影響があります。



「侵略的な外来種」(環境省) (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>) より一部抜粋加工して使用

外来種を拡げないために

外来種による被害を防止するためには、以下の3つの原則を守ることが重要です。外来種に関わる際は、適切な対応とご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

外来種被害防止三原則

1

【入れない】

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を入れない。



2

【捨てない】

飼育・栽培している外来種を捨てない。



3

【拡げない】

すでに野外にいる外来種を他の地域に拡げない。



目黒区にいる外来種のワカケホンセイインコ

ワカケホンセイインコはインドやスリランカ原産の鳥です。言葉を覚えることから、1960年代からペットとして日本へ持ち込まれたものが、逃げ出したり、捨てられたりして、野生化し始めたと考えられています。

目黒区では1975年ごろから群れや巣づくりなどの記録があり、主に、東京科学大学(旧東京工業大学)の大岡山キャンパスやその周辺をねぐらにしていたと考えられています。



全長

全長 40cm

特徴

・全身黄緑色で、長い尾が特徴です。
・樹木にできた穴(樹洞)を利用して子育てをします。同じように樹洞を利用する在来種と場所をうばいあう可能性があります。

目黒区で確認されている野鳥リスト

(1) このリストについて

- 目黒区が保有するいきものの情報※1をもとに、鳥類を抜粋して作成した。
※1: 目黒区都市整備部みどり土木政策課が保有する自然環境等に関する記録をデータベース化し、2009年にホームページなどで公開した「目黒区いきもの住民台帳暫定版」を基本とし、2024年までの記録を加えて更新したもの。種の同定資料がないために従前のリストから削除した記録もある。
- 科の分類および科と科内の配列、学名は基本的に「日本鳥類目録改訂第8版」(2024年9月発行)に従い、掲載されていない種の学名は出典を示した。
- 保護上重要な種は、和名の後にランクを略称で記載した。略称とカテゴリー名と基本概念については表1に示した。
- 生態系被害防止外来種リストに記載されている種については、和名の後に以下の区分で記載した。
 - ・特定外来生物 「※特外」
 - ・重点対策外来種 「※外重点」
 - ・緊急対策外来種 「※外緊急」
 - ・その他の定着予防外来種 「※外その他」

(2) このリストの見方

- 通し番号
- 保護上重要な種には和名のあとにランクを記載した。
- 年代別に目黒区内で確認された記録を「○」で表記した。
- 最新の確認記録を町丁目単位で記録した。

例) 最新記録年月日(町丁目)

丁目は町名の後に数字で示した。例) 駒場1丁目⇒駒場1

公園など観察場所の明確な地名があるものはその名称を町丁名のあとに記載した。

観察日の詳細記録がない場合は「-」で示した。例) 1972/6/-

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年	20年
1 オシドリ 国DD 都EN <i>Aix galericulata</i>			○			
	1999/2/1(東山3<目黒川>)					

表1. 保護上重要な種

	カテゴリー名	略称	基本概念(抜粋: 詳細は原典を参照してください)※
国	絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅	EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ 存続している種
	絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性があるもの
	情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある 地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
	絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
東京都区部	野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
	絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
	絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
	準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
	情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
	留意種	※	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの
	非分布	非	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。

※「環境省レッドリスト2020(2020:環境省)」及び「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)」による

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●カモ科						
1 オシドリ 国DD 都EN <i>Aix galericulata</i>			○			
	1999/2/1(東山3<目黒川>)					
2 トモエガモ 国VU 都DD <i>Sibirionetta formosa</i>					○	
	2019/8/29(中目黒3)					
3 オカヨシガモ <i>Mareca strepera</i>					○	
	2019/1/29(中目黒1<目黒川>)					
4 ヒドリガモ <i>Mareca penelope</i>		○				
	1985/9/26(中目黒2)					
5 カルガモ <i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/29(青葉台2<菅刈公園>)					
6 マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/11/23(中目黒1<目黒川>)					
7 オナガガモ <i>Anas acuta</i>			○	○	○	○
	2024/12/22(中目黒1<目黒川>)					
8 コガモ <i>Anas crecca</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/22(中目黒1<目黒川>)					
9 ホシハジロ 都VU <i>Aythya ferina</i>			○	○	○	○
	2024/1/23(中目黒1<目黒川>)					
10 キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>			○	○	○	○
	2021/12/28(碑文谷2)					
11 スズガモ 都※ <i>Aythya marila</i>					○	
	2019/12/24(中目黒1<目黒川>)					
●キジ科						
12 キジ※1 都EN <i>Phasianus versicolor</i>			○	○		
	2001/6/24(中目黒3<中目黒小学校>)					
13 ウズラ※2 国VU 都CR <i>Coturnix japonica</i>						
	-/-/-(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
●ヨタカ科						
14 ヨタカ 国NT 都EX <i>Caprimulgus jotaka</i>	○					
	1941/5/8(上目黒)					
●アマツバメ科						
15 ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i>						
	-/-/-(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
16 アマツバメ <i>Apus pacificus</i>	○	○	○	○	○	○
	2021/9/10(大岡山2<東京工業大学>)					
17 ヒメアマツバメ 都VU <i>Apus nipalensis</i>		○	○	○	○	○
	2023/9/3(中目黒1<目黒川>)					
●カッコウ科						
18 ホトトギス <i>Cuculus poliocephalus</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/5/28(青葉台2<菅刈公園>)					
19 ツツドリ <i>Cuculus optatus</i>	○		○	○	○	○
	2021/9/22(駒場2<駒場野公園>)					
20 カッコウ 都CR <i>Cuculus canorus</i>	○	○	○		○	
	2016/5/10(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					

※1 1980年代に確認された1例を除いて、飼育種を確認したものである

※2 林業試験場の実験用飼育種を確認したものである

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●ハト科						
21 キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/22(中目黒1<目黒川>)					
22 アオバト <i>Treron sieboldii</i>	○	○		○	○	○
	2021/6/8(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
●フイナ科						
23 クイナ 都DD <i>Rallus indicus</i>		○				
	1984/10/16(目黒本町)					
24 パン 都EN <i>Gallinula chloropus</i>					○	
	2019/3/5(中目黒1<目黒川>)					
25 オオバン 都CR <i>Fulica atra</i>				○	○	○
	2024/12/22(中目黒1<目黒川>)					
26 ツルクイナ <i>Gallicrex cinerea</i>	○	○				
	1986/10/12(駒場2<駒場野公園>)					
●カイツブリ科						
27 カイツブリ 都NT <i>Tachybaptus ruficollis</i>		○		○	○	
	2019/11/21(目黒2<目黒区民センター公園>)					
●チドリ科						
28 コチドリ 都CR <i>Charadrius dubius</i>	○			○		○
	2021/6/26(駒場2)					
29 メダイチドリ 都VU <i>Charadrius mongolus</i>						○
	2022/11/27(中目黒1<目黒川>)(大岡山1)					
●シギ科						
30 ヤマシギ 都VU <i>Scolopax rusticola</i>	○	○		○	○	○
	2021/10/23(駒場4<駒場公園>)					
31 オオジシギ 国NT 都DD <i>Gallinago hardwickii</i>			○			
	1993/4/11(駒場2<駒場野公園>)					
32 タシギ 都VU <i>Gallinago gallinago</i>		○				
	1986/4/-/(駒場2<駒場野公園>)					
33 アカエリヒレアシシギ 都DD <i>Phalaropus lobatus</i>		○				
	1984/5/-/(目黒本町2<清水池公園>)					
34 イソシギ 都VU <i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/22(中目黒1<目黒川>)					
35 キアシシギ 都VU <i>Tringa brevipes</i>	○	○				
	1980/7/29(大岡山2<東京工業大学>)					
●カモメ科						
36 ユリカモメ <i>Chroicocephalus ridibundus</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/11/20(中目黒1<目黒川>)					
37 ウミネコ 都※ <i>Larus crassirostris</i>			○	○	○	○
	2020/9/17(中目黒1<目黒川船入場>)					
38 セグロカモメ <i>Larus vegae</i>			○	○	○	
	2019/1/16(中目黒1<目黒川>)					

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●カモメ科						
39 コアジサシ 国VU 都EN <i>Sternula albifrons</i>	○	○	○	○	○	
2015/7/1(目黒本町2<清水池公園>)						
40 アジサシ <i>Sterna hirundo</i>						
-/-/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
●ウ科						
41 カワウ <i>Phalacrocorax carbo</i>		○	○	○	○	○
2024/12/3(中目黒1<目黒川>)						
●サギ科						
42 ヨシゴイ 国NT 都CR <i>Ixobrychus sinensis</i>	○					
1974/10/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
43 ミゾゴイ 国VU <i>Gorsachius goisagi</i>	○				○	
2014/9/28(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
44 ゴイサギ 都VU <i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○	○	○	○
2024/11/27(中目黒1<目黒川>)						
45 ササゴイ 都CR <i>Butorides striata</i>	○					
1978/7/16(大岡山2<東京工業大学>)						
46 アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>		○				
1981/5/5(目黒本町)						
47 アオサギ <i>Ardea cinerea</i>		○	○	○	○	○
2024/12/22(中目黒1<目黒川>)						
48 ダイサギ 都NT <i>Ardea alba</i>	○	○	○	○	○	○
2024/2/26(青葉台2<菅刈公園>)						
49 チウサギ 国NT 都NT <i>Ardea intermedia</i>		○	○			
1998/7/8(碑文谷6<碑文谷公園>)						
50 コサギ 都VU <i>Egretta garzetta</i>	○	○	○	○	○	○
2024/12/22(中目黒1<目黒川>)						
●ミサゴ科						
51 ミサゴ 国NT 都EN <i>Pandion haliaetus</i>					○	
2013/1/8(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
●タカ科						
52 ツミ 都EN <i>Accipiter gularis</i>		○		○	○	○
2024/9/2(八雲4)						
53 ハイタカ 国NT 都EN <i>Accipiter nisus</i>		○	○	○	○	○
2024/2/26(青葉台2<菅刈公園>)						
54 オオタカ 国NT 都EN <i>Accipiter gentilis</i>	○	○	○	○	○	○
2023/10/7(原町2)						
55 チウヒ 国内希少野生動植物種 国EN 都EN <i>Circus spilonotus</i>		○				
1988/10/30(駒場2<駒場野公園>)						
56 トビ 都NT <i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○	○	○
2021/2/16(大岡山2<東京工業大学>)						
57 サシバ 国VU <i>Butastur indicus</i>	○	○	○	○		
2003/9/23(大岡山2<東京工業大学>)						
58 ノスリ 都CR <i>Buteo japonicus</i>	○	○	○	○	○	○
2021/2/9(中目黒2<中目黒公園>)						

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●フクロウ科						
59 アオバズク 都CR <i>Ninox japonica</i>	○	○	○		○	
2016/4/24(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
60 オオコノハズク 都DD <i>Otus semitorques</i>	○					
1965/4/9(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
61 トラフズク 都CR <i>Asio otus</i>					○	
2016/12/2(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
62 フクロウ 都CR <i>Strix uralensis</i>					○	
2017/12/20(駒場2<駒場野公園>)						
●ヤツガシラ科						
63 ヤツガシラ <i>Upupa epops</i>						○
2024/3/26(緑が丘2)						
●カワセミ科						
64 アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i>	○				○	
2017/10/24(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
65 カワセミ 都VU <i>Alcedo atthis</i>		○	○	○	○	○
2024/12/22(青葉台2<菅刈公園>)						
●キツツキ科						
66 アリスイ <i>Jynx torquilla</i>	○		○			
1998/4/- (五本木2)						
67 コゲラ <i>Yungipicus kizuki</i>		○	○	○	○	○
2024/11/23(青葉台2<菅刈公園>)						
68 アカゲラ <i>Dendrocopos major</i>	○				○	
2019/- (五本木2)						
69 アオゲラ 都EN <i>Picus awokera</i>			○	○	○	○
2023/5/20(八雲5)						
●ハヤブサ科						
70 チョウゲンボウ 都EN <i>Falco tinnunculus</i>	○	○	○	○	○	○
2022/9/26(駒場2<駒場野公園>)						
71 コチョウゲンボウ 都DD <i>Falco columbarius</i>	○					
1971/6/5(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
72 チゴハヤブサ 都DD <i>Falco subbuteo</i>			○			
1997/10/1(駒場2<駒場野公園>)						
73 ハヤブサ 国内希少野生動植物種 国VU 都EN <i>Falco peregrinus</i>		○	○	○	○	○
2024/5/- (下目黒1<雅叙園>)						
●サンショウクイ科						
74 サンショウクイ 国VU 都EX <i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○	○	○	○
2023/12/10(駒場2<駒場野公園>)						
75 リュウキュウサンショウクイ 都DD <i>Pericrocotus tegimae</i>						○
2023/11/18(駒場2<駒場野公園>)						
●カササギヒタキ科						
76 サンコウチョウ 都EX <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○	○	○	○	○
2023/5/21(駒場2<駒場野公園>)						

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●モズ科						
77 チゴモズ 国CR 都EX <i>Lanius tigrinus</i>	○					
	1970/5/28(大岡山2)					
78 アカモズ 国内希少野生動植物種 国EN 都CR <i>Lanius cristatus</i>	○					
	1974/11/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
79 モズ 都CR <i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/2/15(東が丘2<東京都立駒沢オリンピック公園>)					
●カラス科						
80 カケス <i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	○	○	
	2018/5/14(大岡山2)					
81 オナガ 都NT <i>Cyanopica cyanus</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/11/8(駒場2<駒場野公園>)					
82 カササギ※2 <i>Pica serica</i>	○					
	1971/10/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
83 ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/4/17(洗足1)					
84 ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/11/26(中目黒2<中目黒公園>)					
●レンジャク科						
85 キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>	○		○	○		
	2009/3/8(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
86 ヒレンジャク <i>Bombycilla japonica</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/3/14(五本木1)					
●シジュウカラ科						
87 ヒガラ <i>Periparus ater</i>	○	○	○		○	
	2013/1/20(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
88 ヤマガラ 都VU <i>Sittiparus varius</i>	○		○	○	○	○
	2024/9/29(駒場2<駒場野公園>)					
89 コガラ <i>Poecile montanus</i>	○	○		○		
	2002/3/- (柿の木坂1)					
90 シジュウカラ <i>Parus cinereus</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/22(青葉台2<菅刈公園>)					
●ヒバリ科						
91 ヒバリ 都VU <i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	○	○	
	2015/11/1(平町1)					
●ヒヨドリ科						
92 ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/26(青葉台2<菅刈公園>)					
●ツバメ科						
93 ショウドウツバメ <i>Riparia riparia</i>		○				
	1980/8/29(中目黒1<目黒川>)t					
94 ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/5/17(中目黒2<中目黒公園>)					

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
95 イワツバメ 都DD <i>Delichon dasypus</i>		○				
1985/-/(目黒本町2)						
●ウグイス科						
96 ウグイス <i>Horornis diphone</i>	○	○	○	○	○	○
2024/12/19(青葉台2<菅刈公園>)						
97 ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>				○		
2009/4/18(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
●エナガ科						
98 エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	○		○	○	○	○
2024/12/26(青葉台2<菅刈公園>)						
●ムシクイ科						
99 センダイムシクイ 都EX <i>Phylloscopus coronatus</i>	○	○	○	○	○	○
2021/9/7(駒場2<駒場野公園>)						
100 エゾムシクイ <i>Phylloscopus borealoides</i>	○	○	○	○	○	○
2024/8/21(上目黒2<目黒区総合庁舎>)						
101 メボソムシクイ <i>Phylloscopus xanthodryas</i>	○	○	○	○	○	
2016/5/9(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
102 コムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>				○		
2006/6/12(中目黒2<中目黒公園>)						
●ヨシキリ科						
103 オオヨシキリ 都CR <i>Acrocephalus orientalis</i>	○		○	○	○	
2017/5/12(大岡山2<東京工業大学>)						
104 コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i>			○			
1991/6/2(駒場2<駒場野公園>)						
●セッカ科						
105 セッカ 都CR <i>Cisticola juncidis</i>		○				
1983/4/26(目黒本町)						
●メジロ科						
106 メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○	○	○	○
2024/12/21(青葉台2<菅刈公園>)						
●クワイタダギ科						
107 クワイタダギ <i>Regulus regulus</i>	○	○	○	○	○	
2013/3/23(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
●ミソサザイ科						
108 ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>				○	○	○
2021/3/11(駒場2<駒場野公園>)						
●ムクドリ科						
109 ムクドリ <i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	○	○	○	○
2024/11/26(中目黒2<中目黒公園>)						
110 コムクドリ <i>Agropsar philippensis</i>	○	○	○			
1990/8/12(駒場2<駒場野公園>)						

※2 林業試験場の実験用飼育種を確認したものである

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●ツグミ科						
111 トラツグミ 都VU <i>Zoothera aurea</i>	○	○	○	○	○	
	2018/10/31(鷹番1)					
112 マミジロ <i>Geokichla sibirica</i>		○		○		
	2004/5/12(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
113 クロツグミ <i>Turdus cardis</i>	○		○	○	○	
	2010/4/26(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
114 マミチャジナイ <i>Turdus obscurus</i>	○	○	○	○	○	○
	2022/10/31(駒場2<駒場野公園>)					
115 シロハラ <i>Turdus pallidus</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/20(駒場2<駒場野公園>)					
116 アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/2/3(駒場2<駒場野公園>)					
117 ツグミ <i>Turdus eunomus</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/20(駒場2<駒場野公園>)					
●ヒタキ科						
118 エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>	○	○	○	○	○	○
	2022/9/28(駒場2<駒場野公園>)					
119 サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>	○	○	○		○	
	2017/10/18(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
120 コサメビタキ 都EX <i>Muscicapa dauurica</i>	○	○				
	2021/9/10(駒場2<駒場野公園>)					
121 オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○	○	○	○	
	2016/10/11(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
122 ノゴマ <i>Calliope calliope</i>			○			
	1998/10/- (八雲4)					
123 コルリ <i>Larvivora cyane</i>	○				○	
	2011/5/9(大岡山2<東京工業大学>)					
124 コマドリ <i>Larvivora akahige</i>				○	○	
	2016/4/26(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
125 キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/10/15(駒場2<駒場野公園>)					
126 ムギマキ <i>Ficedula mugimaki</i>	○			○		
	2005/5/5(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
127 ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>	○	○	○	○	○	○
	2021/1/13(駒場4<駒場公園>)					
128 ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureus</i>	○	○	○		○	○
	2024/12/19(青葉台2<菅刈公園>)					
129 イソヒヨドリ 都NT <i>Monticola solitarius</i>	○	○		○	○	○
	2023/5/15(青葉台2<菅刈公園>)					
●スズメ科						
130 スズメ <i>Passer montanus</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/12(駒場2<駒場野公園>)					

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●セキレイ科						
131 キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/22(中目黒1<目黒川>)					
132 ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/26(青葉台2<菅刈公園>)					
133 セグロセキレイ 都VU <i>Motacilla grandis</i>	○	○	○		○	○
	2023/11/5(中目黒1<目黒川>)					
134 ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>	○		○			
	1998/1/19(駒場2<駒場野公園>)					
135 タビバリ <i>Anthus rubescens</i>	○	○				
	1982/12/23(中目黒1<目黒川>)					
●アトリ科						
136 アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	○	○		○	○	○
	2024/3/21(駒場2<駒場野公園>)					
137 シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	○	○	○	○
	2023/2/12(駒場2<駒場野公園>)					
138 コイカル <i>Eophona migratoria</i>		○	○			
	1991/4/29(駒場2<駒場野公園>)					
139 イカル 都NT <i>Eophona personata</i>		○	○	○	○	○
	2023/2/12(駒場2<駒場野公園>)					
140 ウソ 都NT <i>Pyrrhula pyrrhula</i>	○	○		○	○	○
	2022/6/20(大岡山)					
141 ベニマシコ 都VU <i>Carpodacus sibiricus</i>	○	○	○			
	1997/5/19(大岡山1<呑川本流緑道>)					
142 カワラヒワ <i>Chloris sinica</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/12(駒場2<駒場野公園>)					
143 ベニヒワ <i>Acanthis flammea</i>	○					
	1977/12/4(駒場4<駒場公園>)					
144 マヒワ <i>Spinus spinus</i>	○		○	○	○	
	2013/3/23(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
●ホオジロ科						
145 ホオジロ 都EN <i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○	○	
	2018/5/2(青葉台2<菅刈公園>)					
146 カシラダカ 都VU <i>Emberiza rustica</i>	○	○	○		○	
	2011/1/18(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
147 ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans</i>	○					
	1972/10/2(駒場)					
148 ノジコ 国NT <i>Emberiza sulphurata</i>		○				
	1986/1/15(駒場2<駒場野公園>)					
149 アオジ <i>Emberiza personata</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/2/18(駒場2<駒場野公園>)					
150 クロジ 都NT <i>Emberiza variabilis</i>	○			○	○	
	2017/10/25(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
151 コジュリン 国VU 都DD <i>Emberiza yessoensis</i>	○					
	1941/1/24(上目黒)					

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
●カモ科						
152 アヒル※3 <i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>	○	○		○	○	○
	2022/9/15(<目黒川>)					
153 シナガチョウ※3 <i>Anser cygnoides</i> var. <i>domesticus</i>			○	○		
	2009/9/27(碑文谷6<碑文谷公園>)					
154 コブハクチョウ ※外その他 <i>Cygnus olor</i>	○					
	1971/12/- (碑文谷6<碑文谷公園>)					
●キジ科						
155 コジュケイ <i>Bambusicola thoracicus</i>	○	○	○			○
	2020/9/21(大岡山2)					
156 キンケイ※4 <i>Chrysolophus pictus</i>	○					
	1974/10/- (下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
157 ニワトリ※3 <i>Gallus gallus</i> var. <i>domesticus</i>			○			
	1997/8/- (目黒本町1)					
158 コウライキジ ※外その他 <i>Phasianus colchicus karpowi</i>	○		○			
	1998/3/3(三田2)					
●ハト科						
159 カワラバト(ドバト) <i>Columba livia</i>		○	○	○	○	○
	2024/12/22(青葉台2<菅刈公園>)					
160 チョウショウバト※5 <i>Geopelia striata</i>	○					
	1974/8/5(大岡山2)					
161 ジュズカケバト※5 <i>Streptopelia risoria</i>	○	○				
	1983/5/12(碑文谷3<すずめのお宿緑地公園>)					
●オウム科						
162 オカメインコ※3 <i>Nymphicus hollandicus</i>					○	
	2017/11/8(中目黒3)					
●ヨウム科						
163 オキナインコ <i>Myiopsitta monachus</i>		○				
	1986/2/21(東が丘1)					
●インコ科						
164 コザクラインコ※5 <i>Agapomis roseicollis</i>					○	
	2015/10/4(緑が丘2)					
165 オオキボウシインコ※5 <i>Amazona ochrocephala oratrix</i>	○			○		
	2005/12/6(大岡山2<東京工業大学>)					
166 セキセイインコ <i>Melopsittacus undulatus</i>	○	○	○	○		
	2007/5/19(下目黒5<東京都立林試の森公園>)					
167 ホンセイインコ※6 ※外その他 <i>Psittacula krameri</i>	○	○	○	○	○	○
	2024/12/15(駒場2<駒場野公園>)					
●ソウシチョウ科						
168 ガビチョウ ※特外 <i>Garrulax canorus</i>				○	○	○
	2023/5/29(中目黒2<中目黒公園>)					

種 名	目黒区の記録 観察年					
	70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
169 ソウシチョウ ※特外 <i>Leiothrix lutea</i>	○	○	○	○		
2009/6/26(目黒本町4)						
●ムクドリ科						
170 ハッカチョウ <i>Acridotheres cristatellus</i>	○					
1979/9/19(大岡山2<東京工業大学>)						
171 キンムネオナガテリムク※5 <i>Cosmopsarus regius</i>					○	
2016/7/18(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
172 キュウカンチョウ※3 <i>Gracula religiosa</i>	○					
1973/10/30(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
173 ズグロムクドリ※7 <i>Sturnus pagodarum</i>	○					
1975/4/18(大岡山2<東京工業大学>)						
●ハタオリドリ科						
174 キンランチョウ※5 <i>Euplectes orix</i>	○					
1979/7/- (駒場2<駒場野公園>)						
175 シコンチョウ※5 <i>Vidua chalybeata</i>	○					
1979/10/5(大岡山2)						
●カエデチョウ科						
176 ペニスズメ <i>Amandava amandava</i>	○					○
2022/8/7(駒場2<駒場野公園>)						
177 ホウコウチョウ※5 <i>Estrilda melpoda</i>		○				
1986/10/12(駒場2<駒場野公園>)						
178 ギンバラ <i>Lonchura malacca</i>	○					
1970/8/3(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
179 ジュウシマツ※3 <i>Lonchura striata</i> var. <i>domestica</i>		○				
1983/6/29(上目黒)						
180 プンチョウ <i>Padda oryzivora</i>	○					
1973/10/13(大岡山2<東京工業大学>)						
181 ルリガシラセイキチョウ※5 <i>Uraeginthus cyanocephalus</i>		○				
1981/9/7(大岡山2)						
●テンニンチョウ科						
182 テンニンチョウ※3 <i>Vidua macroura</i>	○					
1972/10/13(緑が丘2)						
183 ホウオウジャク <i>Vidua paradisaea</i>					○	
2019/7/26(中目黒3)						
●アトリ科						
184 ショウジョウコウカンチョウ※4 <i>Cardinalis cardinalis</i>	○					
1975/4/6(下目黒5<東京都立林試の森公園>)						
185 カナリア※5 <i>Serinus canaria</i>	○					
1973/-/(大岡山2<東京工業大学>)						
●フウキンチョウ科						
186 コウカンチョウ <i>Paroaria coronata</i>	○					
1979/2/19(平町)						

※³ 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2024年10月16日更新)に従った。

※⁴ 「日本産鳥類308種と外国産鳥類201種の尾羽の枚数について」(鳥類標識誌 30(2): 80-106(2018):風間 辰夫、土田 崇重)に従った。

※⁵ 「鳥の飼育大図鑑」(2008:江角 正紀)に従った。

※⁶ ほとんどがワカケホンセイインコであり、ワカケホンセイインコの場合は生態系被害防止外来種リストで「その他の定着予防外来種」に指定されている。

※⁷ 「東京都産鳥類目録2000 自治体編 Ver. 1.01」に従った。

野鳥が見られるのはどんな場所？（解析結果）

これまで見てきた野鳥について、過去から2024年末までの180種31,204件※1のデータを用いて「観察種数が多い場所はどこか」「多く観察されている場所の環境※2はどのようなものか」という視点で解析を行いました。

特に観察種数が多かったのは、下目黒5丁目（116種）、大岡山2丁目（102種）、駒場2丁目（98種）でした。町丁目ごとにとみると、自然的土地利用（緑被面積+水面面積+裸地面積の割合）が高いほど、観察種数が多い傾向がみられました（図1）。野鳥は、緑地や水辺など多様な自然環境がある地域に多く生息していると考えられます。

また、目黒区の鳥にも指定されているシジュウカラの観察例数を2005～2014年と、2015～2024年に分けて整理しました。シジュウカラは樹木が多いほど、観察例数が多い傾向が見られ、この傾向は、どちらの年代も変わりませんでした（図2）。

本種は、平地から山地の林を中心として、市街地、住宅地でも見られる野鳥であり、区内では、公園など樹木がある地域に多く生息していると考えられます。

※1：確認地点の記録が町丁目まで残っているもののみを使用。

※2：環境条件としてみどりの実態調査（目黒区：2015及び2024）の結果を使用。

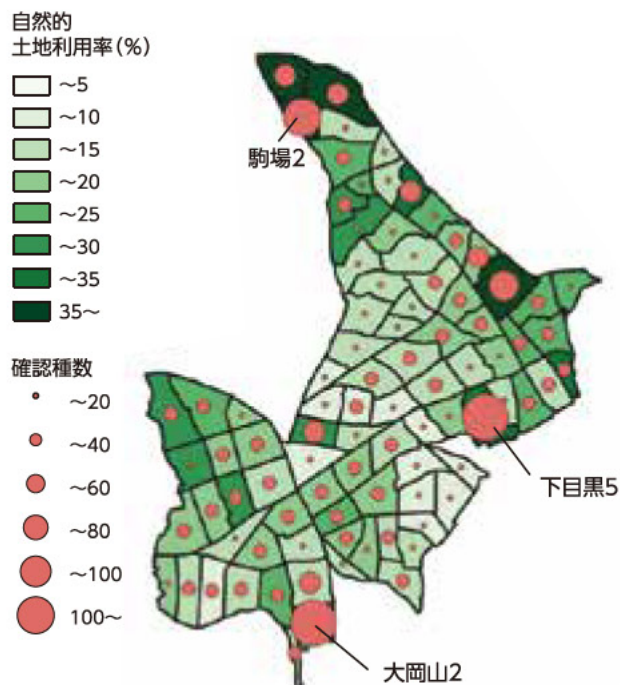


図1. 町丁目別の自然的土地利用と野鳥観察種数

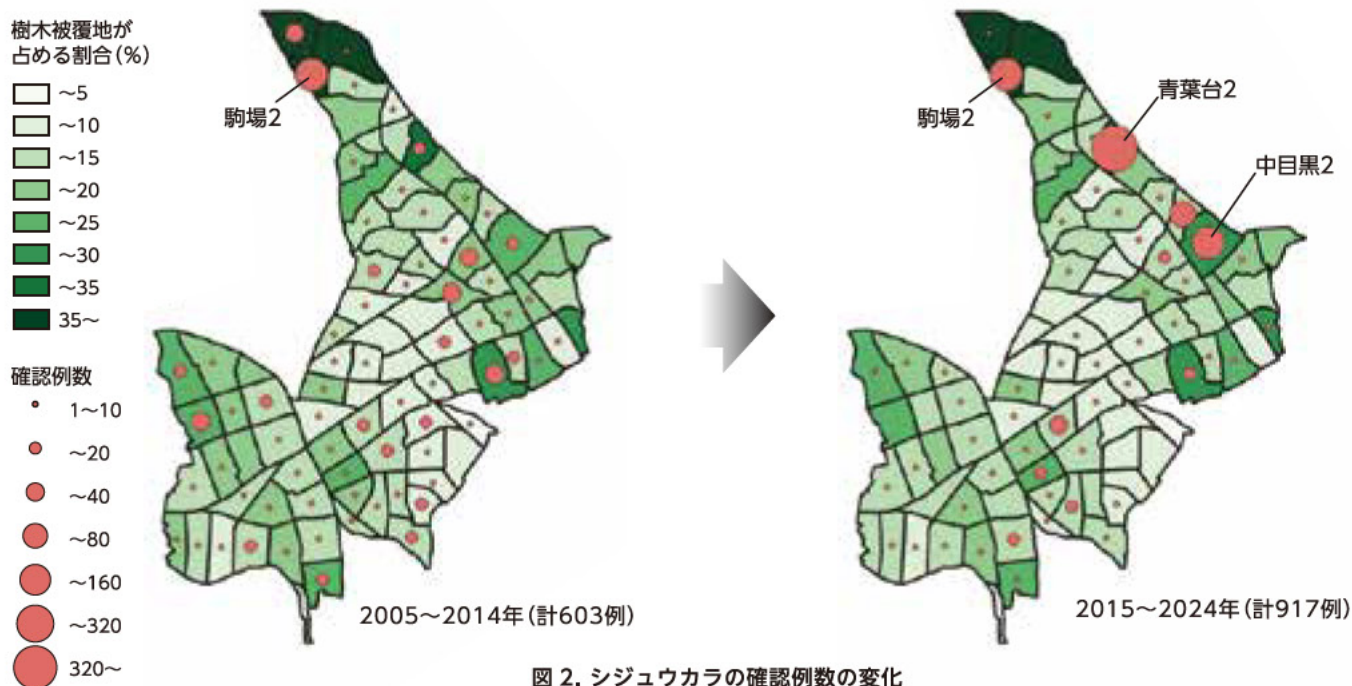


図2. シジュウカラの確認例数の変化

野鳥が見られるのはこんな場所！

- ① 緑地や水辺など多様な自然環境があるところ
- ② 目黒区の鳥「シジュウカラ」は、公園など樹木がある地域に多い

●参考資料等

『小学館の図鑑NEO 鳥』(2002:柚木 修、上田 恵介、岡久 雄二)
『ぱっと見わけ 観察を楽しむ野鳥図鑑』(2015:石田光史、樋口広芳)
『鳥のくらし図鑑～身近な野鳥の春夏秋冬～』(2016:おおたぐろまり、上田恵介)
『学研の図鑑LIVE(ライブ)ポケット⑥鳥』(2017:小宮輝之)
『鳥の飼育大図鑑』(2008:江角 正紀)
『日本産鳥類308種と外国産鳥類201種の尾羽の枚数について』(鳥類標識誌 30(2): 80-106(2018):風間 辰夫、土田 崇重)
『日本鳥類目録改訂第8版(一般社団法人日本鳥学会 閲覧日:2025年2月6日)』
<https://ornithology.jp/checklist.html>
『河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト(国土交通省 水管理・国土保安局 閲覧日:2025年2月6日)』
<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuListfile.htm>

●目黒区の資料

『目黒区みどりの基本計画』(2016:目黒区)
『目黒区のみどりーみどりの実態調査報告書ー』(2024:目黒区)
『目黒区生物多様性地域戦略ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画』(2014:目黒区)
『めぐるのいきもの80選』(2014:目黒区)
『みどりの散歩道コースガイド改訂版』(2017:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野鳥』(2015:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蝶と蛾』(2016:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 土をめぐる生物』(2018:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蜘蛛』(2019:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区の甲虫』(2020:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 暫定版リスト』(2009:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区の水辺のいきもの』(2021:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区ハチ』(2022:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区野草』(2023:目黒区)
『目黒区いきもの住民台帳 目黒区両生類・爬虫類』(2024:目黒区)

●目黒区生物多様性地域戦略

『ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画』
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/kusei/keikaku/machizukuri/kankyohozen/chiikisenryaku/index.html>

●みどりの実態調査(令和5年度)

<https://www.city.meguro.tokyo.jp/midori/kusei/gaiyou/midoriittair05.html>

●自然通信員について

(事業の紹介、ニュースレターのダウンロードなど)
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/kankyou/shizen/yaseiseibutsu/jouhoukyoku/index.html>

●監修執筆 鈴木 俊貴

●イラスト 水谷 高英

(区民による身近な生物調査環境学習資料)

●写真 自然通信員のみなさん ほか

●カラー版 ダウンロード

<https://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/kankyou/shizen/yaseiseibutsu/juumindaichou/index.html>

めぐるグリーンデータブック 2024 目黒区いきもの住民台帳 -身近に暮らすみどりのなかまたち-

めぐるく
目黒区の野鳥 Vol.2 List of birds of Meguro City

発行 初版 2025(令和7)年3月31日 目黒区◎

〒153-8573 目黒区上目黒 2-19-15

目黒区都市整備部みどり土木政策課みどりの係《めぐるいきもの气象台》

電話:03-5722-9355(直通) FAX:03-3792-2112 E-mail:sizen@city.meguro.tokyo.jp

印刷 有限会社ジンキッズ

制作・編集 アオイ環境株式会社



(本冊子は区立図書館で閲覧できます)

目黒区緑化都市宣言

みどりのまちをつくるちかい

思い出してほしい

わたしたちがみどりの中に 生まれ

育ったことを

青い空 木々のこもれ日 季節のささやき

よびかけてる 誰もみな みどりの仲間だと

忘れないでほしい

木も草も 虫も鳥たちもともに暮らす

大切な家族

だから今 かけがえのない 母なる地球を

みんなで分けあっていこう

さあ 始めよう

ひと粒の小さな種をまくことから

大地に根をはり

すくすく枝をのばし

鳥たちがうたい

人びとがやすらぐ

一本の木の種

わたしたちの手で わたしたちの心に

こどもたちに伝える

森をつくろう

1990年10月28日



国連生物多様性の10年-自然と共生する社会を目指して
目黒区は生物多様性地域戦略を推進しています



目黒区生物多様性地域戦略

ささえあう^{いのち}生命の^わ輪

野鳥のすめるまちづくり計画

自然情報・自然通信員募集

庭や公園、校庭などで観察した1つ1つの観察記録がみどりを守り、回復していく貴重な資料になります。年月日、種名（はっきりわからないときは〇〇類、〇〇のなかまとします）、場所（公園名、お庭などの町名番地）、いた環境、個体数などの観察した内容、あれば写真などをみどり土木政策課みどりの係まで郵便・FAX・メール（連絡先は23ページを参照）でお送りください。お送りいただいた方は自然通信員として登録し、年数回、調査結果などをまとめたニュースレターを郵送いたします（無料）。